

# 日本手話における指さしの空間利用

## —「位置」形態素の異同を探る—

伊東（神庭） 真理子

godgarden@hotmail.com

キーワード： 日本手話 三人称代名詞 指示詞 指さし 空間

### 要旨

日本手話は、視覚で認識する言語であり、語は常に手の形・手の向き・位置・動きの要素からなる。先行研究では、異なる2つの空間利用のシステムが提案されている。本論文では、この2つのシステムが並存しうるかどうかを明らかにするため指さしに関する調査を実施した。名詞の種類により2つの異なるシステムが利用されている可能性があることを示す。

## 1. はじめに

日本手話は日本のろう者コミュニティーで用いられる自然言語であり、音声日本語とは異なる独自の体系を持つ。手指・眉・口等の上半身を調音器官とし、視覚で認識する言語であるが故、空間も言語のシステムの一部として分析が可能である。次の例のように、手指を手話空間<sup>1</sup>上のどこに位置づけるかによって意味が異なってくる<sup>2</sup>。

- (1) <母>利き手-上-近 「私の母親」
- (2) <母>正面-上-遠 「あなたの母親」<sup>3</sup>

手話言語の語は常に、手の形・手の向き・位置・動きの要素から成る。本論文では、「位置」の弁別的な形態素を分析することを目的とした指さしの調査の結果から、日本手話の空間利用について述べる。

## 2. 日本手話の空間利用

### 2.1 8つの文法的空間

<sup>1</sup> 発話において上体や手指を動かす範囲。縦は頭頂部～腰、横は肩幅、奥行きは腕の長さの3分の2程度の空間であり、その範囲を超えると不自然な発話と判断される。

<sup>2</sup> 本論文の例文は下記のように記す。<>で手話単語、その後ろに空間上の位置（利き手側／正面／非利き手側－上方／真ん中／下方－話者の身体から近距離／中距離／遠距離）を記す。

<sup>3</sup> 通常、前に(1)は話し手、(2)は聞き手に向けた指さしがつく。



図1 市田 (2005) が提示した8つの文法的空間 (市田の図を基に作成)

市田 (2005) は、代名詞の使用例を分析し、日本手話に3つの意味索性で特徴づけられる8つの文法的空間があると指摘した(図1)。その3つの意味索性とは、「制御不可能性」(観察者<sup>4</sup>から遠いかどうか)・「権威性」(観察者から見て地位が上かどうか)・「心理的近接性」(観察者と協調的關係にあるかどうか)である。

## 2.2 社会的ダイクシス

一方、神庭 (2011) は、社会的ダイクシスのシステムとして、日本手話の空間利用を説明している。市田が話者の身体からの位置関係で8つの空間を定めたのに対し、話者の身体だけではなく(何らかの指示対象を持つ)手指をダイクティック・センターとする場合があり同じシステムとして説明可能だと論じた。具体的には、位置の近さで示される「心理的・物理的距離」と位置の上下で示される「上下関係」の2つに分け、この区別の仕方においても3つの意味索性を提案した市田とは異なる。市田の「制御不可能性」と「心理的近接性」が神庭の「心理的・物理的距離」、「権威性」が「上下関係」に、概ねあたる。

## 2.3 本論文の位置づけ

市田 (2005) は代名詞(つまり、形式としては指さし)のみを考察の対象としており、神庭 (2011) は名詞(形式としては指さし以外)と文脈指示の指示詞(形式としては指さし)を考察の対象としている。文脈指示の指示詞は、発話内で他の語が表出された位置へ向けた指さしであり、代名詞とは形式は同じであってもその機能は区別される。そのため、両者の提案したシステムは日本手話の言語システムの中で矛盾することはなく、かたや代名詞の空間利用のシステム、かたやそれ以外の名詞のシステムとして並存しうる。

そこで、機械的に空間を等分して、それぞれの位置で表出される代名詞を含む例文を作成し、それらの例文の意味の異同をアンケート調査することによって、代名詞の空間利用システムを再検討したのが本論文である。

<sup>4</sup> 手指のみならず、話し手の身体も(話し手自身ではない)指示対象を持つ場合があるため、市田は「観察者」という用語を使用している。

### 3. 調査内容

#### 3.1 調査概要

調査は2013年11月～2013年12月にかけて行った。被験者は、20代～60代以上の日本手話を日常的に使用しているろう者18人である<sup>5</sup>。また、本調査の前、2名のろう者に課題動画が適切であるか確認してもらった。内容説明と例文および課題文はデフ・ファミリーの20代のろう者が日本手話で行っており（図2-1）、課題文の切れ目や間に挟まる休憩を指示するための一部のみ日本語文に依っている（図2-2）。被験者には、この動画をPCのディスプレイで再生し、調査用紙に回答を書き込んでもらった。課題終了後、言語的背景に関するアンケートに日本語で記載してもらい、調査に関する感想を筆者が日本手話でインタビューした。

課題動画は、内容説明、練習2問、本番28問、休憩5分、本番（30問）で構成されている。内容説明は以下の通りである。

今からご協力いただく問題は全部で58問あります。すべて同じ、「私には友達があります。その人はろうです。」という文ですが、最後の指さしの位置が違います。1つの問題で、2つの手話表現が連続して流れます。2つの文の意味が同じだと思ったら「A」を、違うと思ったら「B」を書いて下さい。回答に自信が持てない場合は、「A?」または「B?」と書いて下されば結構です。問題を繰り返し見ることはできません。28問目が終わったところで休憩になりますので、ご承知おき下さい。それでは、ご協力よろしくお願い致します。



図2-1 課題文

意味は同じ…A  
意味は違う…B  
答えに自信がない…A?かB?  
を記入して下さい。

図2-2 1問ごとに挿入される日本語文

#### 3.2 課題文

課題文を日本手話で表すと下記のようなになる。慣例に則り、話し手への指さしを pt1、話し手でも聞き手でもない第三者を表す指さしを pt3 で表記するが、pt1 が常に同形であるのに対し、pt3 は様々な位置をとりうる<sup>6</sup>。ピリオドの位置にはうなずきが入る。うなずきを含む上体の傾きや眉の動きは NMs (Non-Manuals) と呼ばれ、手指同様に文法的な機能がある。今回の調査で

<sup>5</sup> 男性10人、女性8人。出身地は北海道から関東近郊、中国地方・四国地方までとばらつきがある。ちなみに、日本手話にも方言が存在するが、語のレベルでの違いであり、文法的には日本語ほどの差異はないとされる。

<sup>6</sup> 位置だけでなく、手の向きについて掌が上または下に向く場合も考えられるが、事前の調査で2名のうち1名のコンサルタントから、不自然であると指摘があったため、課題文は手首の回転があまりないものになっている。

は、可能な範囲で同じにしてもらうように依頼した上で課題文を撮影している。

(3) pt1 <友達>正面/中/中<いる>正面/中/中. <ろう> pt3<sup>7</sup>

「私には友達があります。その人はろうです。」

pt3 の位置には、2 節で概観した先行研究を踏まえ、手話空間を縦・横・奥行きで 3 等分に区切った 27 個に利き手側と非利き手側の肩の上の 2 個の位置を加えた 29 個 (表 1) を想定し、隣り合った位置のペアを 58 組 (表 2) 作成した。この 58 組のそれぞれのペアで、どちらの位置を含む文が先に提示されるかはランダムに決定しており、58 組の提示順もランダムに並び替えている。課題は組み合わせ A と組み合わせ B の 2 通りあり、ペアの提示順序が逆になっている。

表 1 29 の位置とコードの対照表

コード	位置	コード	位置	コード	位置
1	利き手/上/近	11	正面/上/近	21	非利き手/上/近
2	利き手/上/中	12	正面/上/中	22	非利き手/上/中
3	利き手/上/遠	13	正面/上/遠	23	非利き手/上/遠
4	利き手/中/近	14	正面/中/近	24	非利き手/中/近
5	利き手/中/中	15	正面/中/中	25	非利き手/中/中
6	利き手/中/遠	16	正面/中/遠	26	非利き手/中/遠
7	利き手/下/近	17	正面/下/近	27	非利き手/下/近
8	利き手/下/中	18	正面/下/中	28	非利き手/下/中
9	利き手/下/遠	19	正面/下/遠	29	非利き手/下/遠
10	利き手/肩上	20	非利き手/肩上		

表 2 課題で提示される位置のペア

問題 No.	組合せA	位置	組合せB	問題 No.	組合せA	位置	組合せB	問題 No.	組合せA	位置	組合せB						
	コード	関係	コード		コード	関係	コード		コード	関係	コード						
1	5	15	横	15	5	21	23	26	縦	26	23	41	20	24	他	24	20
2	26	29	縦	29	26	22	13	23	横	23	13	42	27	24	縦	24	27
3	15	12	縦	12	15	23	29	19	横	19	29	43	28	18	横	18	28
4	14	17	縦	17	14	24	14	15	奥	15	14	44	1	2	奥	2	1
5	20	21	他	21	20	25	4	5	奥	5	4	45	6	5	奥	5	6

<sup>7</sup> 日本手話の語彙にはどの位置でも表出可能なものと表出される位置に制限のあるものがある。<ろう>は位置が変化しない。

6	12	22	横	22	12	26	11	1	横	1	11	46	25	26	奥	26	25
7	25	24	奥	24	25	27	26	16	奥	16	26	47	5	8	縦	8	5
8	18	15	縦	15	18	28	24	21	縦	21	24	48	15	16	奥	16	15
9	28	29	奥	29	28	29	11	21	横	21	11	49	4	1	縦	1	4
10	28	25	縦	25	28	30	7	4	縦	4	7	50	1	10	他	10	1
11	8	7	奥	7	8	31	13	12	奥	12	13	51	22	25	縦	25	22
12	22	21	奥	21	22	32	18	19	奥	19	18	52	18	8	横	8	18
13	9	6	縦	6	9	33	5	2	縦	2	5	53	3	6	縦	6	3
14	9	8	奥	8	9	34	10	4	他	4	10	54	13	3	横	3	13
15	18	17	奥	17	18	35	14	24	横	24	14	55	4	14	横	14	4
16	28	27	奥	27	28	36	27	17	横	17	27	56	16	6	横	6	16
17	14	11	縦	11	14	37	7	17	横	17	7	57	12	11	奥	11	12
18	22	23	奥	23	22	38	25	15	横	15	25	58	19	16	縦	16	19
19	2	12	横	12	2	39	9	19	横	19	9						
20	16	13	縦	13	16	40	3	2	奥	2	3						

### 3.3. 結果

18人の回答を「A」または「A?」 = 「1」、 「B」または「B?」 = 「2」とし、「2」の回答の数を基準に被験者と課題を並び替えた(表3)。「A?B?」と無回答は「-」で示している。

全員の回答が一致したのは問題No. 14の「利き手/下/中」と「利き手/下/遠」のペアのみであったが、被験者の多くで回答が一致しているものには特徴がある。大多数に意味は同じであると判断された問題No. 14, 15, 26, 5, 16は手話空間内の上または下の位置であり、大多数に意味は違うと判断された問題No. 17, 20, 28, 30, 35, 38, 51が上、中、下の位置を網羅しているのとは対照的である。また、同じと判断された問題のうち問題No. 14, 15, 16は奥の位置関係にあるペアであるが、違うとみなされた問題No. 17, 20, 28, 30, 35, 38, 51には奥の位置関係のペアは存在していない。逆に違うとみなされた問題のうち、問題No. 17, 20, 28, 30, 51は縦の位置関係にあるペアであるが、同じとみなされた問題には含まれていない。全体的に奥行のみで位置が違う形態素とみなされる可能性は他の位置関係よりも低い。

しかしながら、多くの問題で回答にばらつきが出ている。ばらつきが出た要因について次節で検討する。

表3 結果

No.	ペア	配置	16m	03f	09m	13f	18m	08m	06m	20m	04f	05f	17m	14f	11f	10m	19f	07f	15m	12m	BとB? の数	
14	9	8 奥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	18	17 奥	1	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
26	11	1 横	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
5	20	21 他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
16	28	27 奥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
9	28	29 奥	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
11	8	7 奥	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
32	18	19 奥	1	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3
48	15	16 奥	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3
57	12	11 奥	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3
7	25	24 奥	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4
31	13	12 奥	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	4
40	3	2 奥	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	4
44	1	2 奥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	4
46	25	26 奥	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	4
18	22	23 奥	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	5
4	14	17 縦	1	0	-	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	6
24	14	15 奥	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	6
45	6	5 奥	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	6
2	26	29 縦	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1	1	7
10	28	25 縦	0	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	8
19	2	12 横	-	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	8
8	18	15 縦	0	0	-	0	0	1	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	9
12	22	21 奥	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	10
22	13	23 横	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
25	4	5 奥	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	11
39	9	19 横	-	1	-	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
52	18	8 横	-	0	-	1	0	1	1	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	11
6	12	22 横	1	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	12
1	5	15 横	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	12
23	29	19 横	1	1	-	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
42	27	24 縦	0	1	1	0	0	1	0	1	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	1	12
43	28	18 横	0	1	-	0	1	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
58	19	16 縦	1	1	-	0	0	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	12
3	15	12 縦	0	1	1	1	1	0	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
54	13	3 横	0	0	1	1	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
36	27	17 横	1	1	-	0	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14
47	5	8 縦	0	1	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14
53	3	6 縦	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14
13	9	6 縦	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15
21	23	26 縦	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15
29	11	21 横	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15
41	20	24 他	0	0	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15
27	26	16 横	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16
33	5	2 縦	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16
34	10	4 他	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16
37	7	17 横	1	1	-	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16
49	4	1 縦	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16
50	1	10 他	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16
55	4	14 横	-	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16
56	16	6 横	-	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16
17	14	11 縦	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	17
20	16	13 縦	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	17
28	24	21 縦	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	17
30	7	4 縦	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	17
35	14	24 横	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	17
38	25	15 横	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	17
51	22	25 縦	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	17

BとB?の数

17 20 20 25 27 29 29 31 33 33 35 34 36 38 44 46 47 52

## 4. 被験者の答えに影響を及ぼした要因

### 4.1 NMs

3.2節で「NMsは可能な範囲で同じにしてもらうように依頼した」と述べたが、インタビューにおいて課題文に様々なNMsの差異があることが分かった。具体的には、上体、眉、うなずき、ポーズが挙げられた。各被験者がどのNMsを考慮に入れて回答しているかは判断がつかない。課題文撮影の際に位置以外の要素を同じにする試みが不十分であった。

06, 08, 09, 10, 11, 18, 19, 20の被験者は、インタビューでNMsの違いを回答に反映しなかったと話した。ところが、この8人の回答にもばらつきがあり、さらに4.2節以降の要因があったと考えざるを得ない。

### 4.2 現場指示の解釈

課題文の指さしを現場指示と捉えている場合がある。正面／中／近・中・遠や利き手／肩、非利き手／肩は、実際にその人物がいるとインタビューで回答した被験者が複数いた。また、一般的な現場指示とは異なるが、事前調査では、正面／上／近で「死んでいる」、正面／下／中で「アパート等の階下に住んでいる」といった回答があり、実際にいるかどうかは問題ではなく、指示しようとする人物と強く結びついた場所（天国や家等）で代替しているという解釈もある。内容説明には発話場所に関する情報が入っておらず、被験者が自由に想像できたため、このような余地が生じた。

<友達>という語に、心理的距離が近く、上下関係は同位であるという含意があるため、位置がそれと矛盾する場合は、使用できない、または、特別な説明が必要であるとの話もあった。この場合には、現場指示である解釈が優先される。

### 4.3 位置の区切り

本調査では手話空間を縦・横・奥行で3等分に区切り、左右の肩上の2つの位置を足した29個の位置を想定した。しかしながら、例えば、仮に奥行が2つの区分であるシステムを想定すると、中の位置は遠とも近ともとれる曖昧な空間になり、被験者ごとのばらつきが出た可能性がある。実際に、インタビューで「（奥行きが）近と遠であれば意味が違っている。近と中、中と遠は区別がつかない」という話があった。縦と横についても同様である。

市田 (2005) の8つの空間では、3つの意味素性で区分されていない未使用の位置がある。これについて、未使用の位置の指さしが全て現場指示の解釈しかありえない場合は、代名詞とその他の名詞のシステムが別々に存在すると考えられる。

## 5. まとめ

本調査では、位置の要素について、手話空間上を29個に区切って、それぞれの異同を明らかにしようとした。今回の結果からは、市田 (2005) の8つの空間を否定する結果はなく、代名詞の

空間利用と神庭 (2011) で示されたそれ以外名詞の空間利用が別のシステムである可能性が示唆された。

今回の調査では、NMs や発話場所の情報を統一されておらず、意図した回答が得られていないため、今後はこれらの要因を排除した検証が必要である。

#### 参考文献

市田泰弘 (2005) 「手話の言語学 (6) 空間の文法—日本手話の文法 (2) 「代名詞と動詞の一致」  
『月刊言語』, 34 (6): 90-98.

神庭真理子 (2011) 「日本手話の社会的ダイクシス」『日本言語学会 第143回大会 予稿集』,  
60-165.

## Pointing Space in Japanese Sign Language: Exploration for “Location” Morphemes

Mariko Ito (Kamba)

godgarden@hotmail.com

**Keywords:** Japanese Sign Language, third person pronoun, demonstrative, pointing, space

#### Abstract

Japanese Sign Language is perceived by visual perception and its word is consisted of Handshape, Orientation, Space, Movement. Earlier studies exhibit two different space systems. This paper is about an investigation into pointing to judge whether the two systems can work. They can be available if they are related other noun groups.

(いとう (かんば)・まりこ)